植樹式
2002

時の蘇生・柿の木プロジェクト

目次

2020 年 更新

2 月 17 日		高知県立美術館 日本・高知県・高知市	1
2 月 23 日		高森町丸山公園 日本・長野県・下伊那郡	2
2 月 25 日		ノースウエスト高校 アメリカ・メリーランド	3
2 月 27 日		ヘイウッドバーンズ環境教育センター アメリカ・ニューヨーク	4
2 月 28 日		ドラパーミドルスクール アメリカ・ニューヨーク	5
3 月 13 日		グラスゴー植物園 イギリス・スコットランド・グラスゴー	6
3 月 15 日		ネイチャー・イン・アート イギリス・グロウスター	7
3 月		ブリックタウン・メモリアル高校 アメリカ・ニューヨーク	8
		大垣市立北小学校 日本・岐阜県・大垣市	
		大垣市立青墓小学校 日本・岐阜県・大垣市	
		大垣市立中川小学校 日本・岐阜県・大垣市	
		大垣市立川並小学校 日本・岐阜県・大垣市	
		大垣市立北中学校 日本・岐阜県・大垣市	
		大垣市立星和中学校 日本・岐阜県・大垣市	
		太平洋工業株式会社 日本・岐阜県・大垣市	
		西濃運輸株式会社 日本・岐阜県・大垣市	

高知県立美術館

日本
高知県・高知市
2002 年 2 月 17 日

2001 年 7 月 20 日から 9 月 16 日に開催された『「時の蘇生」柿の木プロジェクト in Kochi』展から始まり、高知県立美術館では植樹まで、関連企画「脱藩の道から柿の木まで」、「手作り楽器ワークショップ」など数々なイベントが行われました。

植樹式当日は、小雨のため、エントランスホールで植樹式は開催されました。親子連れ約 30 人が参加。海老沼先生の挨拶ののち、ワークショップ参加者で構成されている「柿の木音楽隊」の演奏が行われました。演奏には、2001 年 12 月と 2002 年 1 月に行われた「手作り楽器ワークショップ」で制作されたフエ、ドラム、カキンバ、ヒョウキンなどの楽器が使われました。柿の木カリンバなどの手作り楽器の音が響きわたり、柿の木は美術館敷地内の緑地に植樹されました。柿の木のプレートはワークショップを行ってくれたアーティストの西悟さんによって制作されています。

高森町丸山公園

日本
長野県・下伊那郡
2002 年 2 月 23 日

高森町は果樹の実る町。この町の町木は「柿の木」です。特に干柿の「市田柿」発祥の地として有名で、どの家にも柿の木が植えられ、干柿が吊るされています。町のこども達が小さな頃から親しんでいる柿が平和と結びつきました。高森町は平和への意識が高く、毎年、広島へ平和バスを派遣しています。対象は小・中・高校生と一般の方も加わります。平和バスの出発式が行われる丸山公園に、1995 年、広島の被爆二世のアオギリが平和推進委員の手によって植えられました。積極的な平和への取り組みが行われている高森町の町長、吉川貢さんがこども達の平和学習の為と植樹を希望されました。

植樹式は教育委員会、公民館の方々がコーディネートをしてくれました。海老沼正幸先生も長崎から招待され、町の関係者、南小学校、北小学校、中学校のこども達の計 90 名が参加。式典ではこども達により高森町の平和の歌「わたしのふるさと」が披露され、植樹は小学生と中学生のそれぞれが 2 本の柿の木を植樹しました。

8 月 5 日、高森町丸山公園で「平和を願う、柿の里高森・広島平和バス出発式」が行われました。柿の木のそばでコカリナの演奏が行われ、地域の方々とこども達を乗せた平和バスは広島へ出発しました。植樹から 5 年経った 2007 年、成長した柿の木には 3 つの実がなり、その翌年の 2008 年には 200 個もの実をつけるほど成長しています。

ノースウエスト高校

アメリカ
メリーランド州
2002 年 2 月 25 日

ノースウエスト高校はワシントンＤＣから車で 45 分の街、ジャーマンタウンにあります。柿の木はノースウエスト高校のメデイアセンターの前庭に植樹されました。出来て 3 年目の新しい学校。高校のクラブ活動のひとつであるピースクラブは世界的にも珍しいクラブ活動です。今回はクラブの先生の想いでプロジェクトが実現しましたが、企画はピースクラブの学生と PTA が主体となり、自主的な運営で進められました。

式典では、学生オーケストラがアメリカ人作曲家ダニエル・バクヴィッチの交響曲第 1 番「ドレスデン 1945 年追悼」を演奏。この曲は第二次大戦末期のドレスデン爆撃を題材とした曲。高校生にしてはとても難しい曲とされるのですが、プロジェクトの背景を理解した上での選曲でした。また君が代の合唱、カラーガード行進などもありました。植樹のとき、アニー・アルバグリさんのお母さんがメッセージを披露。月夜の下、参加者が柿の木を囲んで手を繋ぎ、「私たちはひとつ」と訴えました。一服の絵のような植樹式。とても純粋で美しい植樹式となりました。

ヘイウッドバーンズ環境教育センター

アメリカ
ニューヨーク
2002 年 2 月 27 日

ヘイウッドバーンズ環境センターは、ＮＹ州の州都であるアルバニー市内にあるＮＰＯ団体です。貧しい人々を対象とした教育や生活改善の様々な事業を積極的に行っています。また、市内にある「チボリ公園」の池が汚染されていることを知り、子供の安全のための改修・改善を行政や関係企業へ働きかけています。2 年後、このチボリ公園にピースガーデンを作り、そこへ柿の木は植樹される予定です。ここのプロジェクトは柿の木を植え、地域の貧しい人々の精神的な支えにしたいという願いが込められています。

植樹の中心者は、ヘイウッドバーンズ環境センターのピーター・シェーハムさんです。彼はドラパー中学校のマリアム・マイヤー先生に柿の木プロジェクトのことを紹介され、植樹の申し込みをしました。マリアム先生は、ヘイウッドバーンズ環境教育センターのボランテイアでもあります。今回、ドラパー中学校とヘイウッドバーンズ環境センターの 2 ヵ所はお互いに協力しあい、植樹準備をすすめてきました。

植樹式に先立ち、地域のこども達 50 人と一緒に折り紙ワークショップが行われました。また、こども達の手で巨大な横断幕も制作されました。式典はタングさんの胡弓演奏から始まり、戦争を経験したことのあるアントン・セゴール（ホロコースト生存者）さんがドイツで体験したホロコーストの話をしてくれました。アメリカでは外国からの植物は 2 年間ポット植えでなければ地植えできないため、式典では柿の木の贈呈とセレモニーのみが行われました。今後も、柿の木を使って、教育の貧困なこの地域のこども達へ平和を伝えるため、今後も積極的な活動を継続していきたいと話していました。

ドラパーミドルスクール

アメリカ
ニューヨーク
2002 年 2 月 28 日

ドラパー中学校は NY 州の州都アルバニーから北へ車で 20 分くらいの街スケネクタデイーにあり、公立高校も併設する大規模な学校です。ドラパー中学校のマリアム・マイヤー先生が柿の木プロジェクトの実施を学校に提案し、同僚、3 人の先生が代表となり申し込みを行いました。

式典前日、マリアム・マイヤー先生が顧問をしている「平和を考えるクラブ」の生徒 30 人は折り紙ワークショップを行いました。また合わせて横断幕も作りました。

ドラパー中学校に隣接する高校の講堂での式典は圧巻でした。音楽演奏から始まり、原爆の話しと柿の木プロジェクトの紹介（コンピュータイメージで作成)、生徒のジャズバンド演奏、高校生のダンスチームによるダンス、実行委員の挨拶が行われました。柿の木はポット植えのまま植樹、「平和を考えるクラブ」のメンバーで土をかけていきました。1000 人を超える生徒の参加者、そして、3 人の先生の情熱で式典は大成功でした。これには、マリアム先生と彼女のこどもが作ったコンピューターイメージの柿の木の説明イントロダクションの素晴らしさがありました。このイントロダクションは「サダコの話」や、広島･長崎の資料館からの写真も使って、こども達の興味をひくように非常に分かり易く作ってありました。この映像を見て涙ぐむ子もいて、式典終了後は、多くのこども達が、壇上にかけより、柿の木を見て、握手を求めてきたりしました。9.11 のテロにあって、こども達は被爆の恐ろしさや痛みを理解できるようになったのかもしれません。学校の入り口に飾られた、テロ後に送った実行委員からのメッセージがそれを物語っているようでした。午前中すべてを使っての全校生徒の参加も珍しく、学校長に働きかけて実現した 3 人の先生たちの行動力に感動しました。

グラスゴー植物園

スコットランド
グラスゴー
2002 年 3 月 13 日

グラスゴー植物園は市内の西部中心街に位置しています。植物園は市民にとって憩いの場所となっています。現地中心者のジェリー・ルースさんは、詩人であり、植物園では「ポエット・イン・レジデンス」という立場で、様々なイベントを企画しています。2001 年春、日本を訪れた際、柿の木プロジェクトの事務局を訪問してくれました。

グラスゴーの植樹式、当日は雲ひとつない晴天に恵まれました。参加者の年齢層は幅広く、お年寄りからこどもまで参加しました。時間になると続々と参加者が集まり始め、犬連れの人や車椅子に乗っている人も気軽に参加してくれました。ジェリーさんの努力により、グラスゴー市内のいろいろな学校を巻き込んだ多彩なパフォーマンスが展開されました。

特にスピーチ直後に行われた、心身障害者の方々と一緒にギターの演奏に合わせてうたった唄は、とても自然なカタチでみんなが参加できた素晴らしい企画でした。ダンスパフォーマンスや太鼓実演、太極拳のパフォーマンスがあり、1時間のセレモニーはあっという間に過ぎてしまいました。パフォーマンスは内容の濃いものばかりで、特にラリー・ブトラーさんの太極拳のパフォーマンスは人と大地の繋がりを実感できるもの。また朗読は日本にはない民族問題を露出させたものでした。

柿の木の植樹場所は日当たりがよく、小高い丘の上にあり、公園全体を見渡すことができるよく目につく場所でした。植樹式の後、柿の実折り紙を教えたところ、6月のワークショップで実施するとのことでした。式典には、イースト・パーク学校の児童、グラスゴー水産大学の学生、ヒルヘッド 高校の生徒、ライジング・ドラゴン・タイチ、ピョチョ・タイコ、クリーブデン中学校の難民捜索者グループなど、地域の多数の団体が参加しました。

ネイチャー・イン・アート

イギリス
グロスタシャー
2002 年 3 月 15 日

ネイチャー・イン・アートは自然をテーマにしたアートを専門とする芸術センターです。アーティストのブルース・アレンさんはボルドーで柿を植えたシャンタル・ラッセル・ル・ローさんから「被爆柿の木二世」の話を聞き、チャーチャム小学校のこども達と 2 年越しで植樹プロジェクトを実現しました。

植樹式の前に実行委員はチャーチャム小学校を訪問し、あたたかく歓迎されました。遠い異国からの訪問者にこども達は好奇心いっぱいでした。その後、バスで植樹場所に移動。車中もイベントで盛り上がる元気な声で満たされていました。式典は「音楽の彫刻」でスタートし、ビオラ奏者のイアン・リチャードソンさんとこども達が手作り楽器を演奏しました。「柿インプレッション」と題したパフォーマンスでは芝生に型紙を置き、芝の色の差異で見事な柿の木が出現しました。その後は、サーカスの火吹きパフォーマンス、こども達のメッセージの朗読と続き、柿の木が植樹されました。最後は、平和の願いを風船に託し、大空へ飛ばしました。

2003 年にはブルースさんの友人がすむグルジア共和国で植樹が行われ‘被爆柿の木二世’を通じて国境を越えた新たな交流が生まれています。

ブリックタウン・メモリアル高校

アメリカ
ニュー・ジャージー州
2002 年 3 月

ブリックタウン・メモリアル高校は 14 歳から 18 歳までの公立校で、生徒数 1800 人から 2000 人の巨大な学校です。現地事務局代表のデヴィッド・シーギルト先生は若く、エネルギッシュな青年で、高校の生徒たちの精神と身体のカウンセラーです。ダラスで植樹したディー・メイズ先生が柿の木プロジェクトのことを紹介した教育雑誌でこのプロジェクトを知り、申し込みを行いました。

植樹場所は高校の近くの公立公園に地植え予定（3 月中に）。ここは、管理も安全も確保されているところ。学生もいつも行く場所です。また、市民も自由に見ることができます。巨大な学校ゆえ、伝達やコンセンサスを得るのに時間がかかり、そのため、植樹式が予定より遅れました。柿の木は宮島がニューヨークでデヴィッド・シーギルト先生に手渡しました。

後日デヴィッドさんから連絡があり、柿の木は学校の学生が管理をしているとの事でした。環境の変化もあり、数ヶ月後に 1 本が枯れてしまいましたが、もう 1 本はとても力強く育ち、新しい枝と葉をつけています。近所の人が楽しめるように根元に名盤をとりつけたとのことでした。